

■福祉心理学科カリキュラムマップ

ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

心理実践力を修得するために、以下の7つの資質・能力を育てます。

- 多文化共生社会における総合的な人間理解力
  - 人の心には、人々に共通する心の特徴(一般的原理や法則)と、人それぞれの心の特徴(個人差や多様性)があることを理解できる
  - 人の心と行動は、社会・環境と相互に影響しあっており、社会・環境の影響で変わること理解できる
  - 生活場面における人の心と行動について、心理学および隣接領域も含めて、さまざまな観点から幅広く総合的に理解できる
- 根拠に基づく情報発信力
  - 心理学の方法(文献検討、観察、実験、調査、面接等)を用いて、客観的なデータを集めることができる
  - 心理学の方法で得たデータを、図や表を用いて整理し、他者にわかりやすく伝えることができる
- 批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力
  - 多様な生活場面における人の心と行動を適切に把握して分析し、より本質的な問題に気づくことができる
  - さまざまな分野の知識を柔軟に組み合わせ、多様な他者の気持ちや意見を考慮し、予防策や解決策を見出すことができる
- 多様な人々への共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力
  - 他者の気持ちや意見を共感的に理解し、対話のなかで理解を深めることができる
  - 他者の気持ちや意見を尊重しながら、自分の気持ちや意見を適切に表現できる
- 自己理解に基づくセルフコントロール力
  - 自分の気持ち、考え方、行動とそれらの特徴に気づくことができる
  - 怒りや不安等の自分の感情に気づき、ストレスに対処することができる
  - 自分の成長につながる目標を立て、やる気(モチベーション)を高めることができる
- 集団理解に基づく対人調整力
  - 集団の目標を共有し、役割を分担し、取り組む課題を明確にすることができる
  - 集団で情報を共有し、メンバーのやる気(モチベーション)に気を配り、自由に意見を出してもらおうことができる
  - メンバーのやりがいや喜びを共有し、メンバーの取り組みを前向きに評価できる
- 多文化共生社会における心理学の学びを活かした社会貢献力
  - 積み重ねてきた学びを統合して、多文化の人びとの幸せや福祉に貢献することができる
  - 個人や社会に役立つテーマを設定し、これまでの学びを活かしながら当事者や関係者とともに課題の解決に取り組むことができる

科目カテゴリ	授業科目	担当者	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係(◎特に重要、○重要、△望ましい)							
					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
基盤教育科目	こころの科学	名和界子	この講義では、生体の行動を観察することによって心のはたらきを研究することの意義を学び、心理学が私たち人間の理解にどのような貢献をしているかについて学ぶ。また、特定の分野だけでなく、基礎から応用まで幅広く紹介することを目的とする。本講では、講義形式をとるが、簡単な心理学に関する実験やデモを取り入れることで、講義内容の理解を深めることを目指す。	①心理学の基本的な問いを理解し、代表的な領域の知見を説明できる。 ②心理学的な実験結果を図表をもとに読み解くことができる。 ③様々な心理学の知見を日常生活の問題に結び付けて論述できる。	◎		△			○		
	こころの科学	山口奈緒美	学問としての心理学に初めて触れる学生を対象に、心のはたらきについて心理学が明らかになってきたことを広く紹介します。全15回の授業を通して、知覚、記憶、感情、学習、動機づけ、人格、発達、社会、臨床心理学を概観し、それぞれの領域が示してきた人間像を紹介し、人間理解に対するひとつの見方を提示します。	1)様々な心理学実験の結果を理解し、人々の心の働きに関連付けて説明することができる。 2)日常の生活における自己や他者の行動の背後にある心理プロセスを論述することができる。	◎					◎		
	こころの科学	朝岡陸	はじめて心理学を学ぶ人のために、日常的なテーマについて心理学が何をどこまで明らかにしているのかを説明する。その後、そうした知見の基盤となる基礎的な研究を取り上げる。こころを科学するには、社会的環境、個人差、発達段階などが人にもどのような影響を与えるか、様々な視点から複合的に考察する必要がある。本講義では、心理学の各分野(福祉心理、社会心理など)で主要な研究を学ぶことで、自らが科学的な視点をもち、適応的な社会生活を送れるよう問題解決能力を向上させることを目指す。	1 心理学における科学的な研究手法を説明できる 2 様々な心理学領域の基礎知識を身につけ、それらがどのような場面で応用できるかを提案できる 3 現実場面で生じる問題への対処方法を考察することができる	◎			○		△		
	統計情報を見る目	名和界子	本講義では、統計学的なものの考え方とその初歩的な手法について解説を行います。その際、受講生の皆さんにとって、その内容が様々な情報を論理的に整理し、理解し、新たな事実を発見する際の有効な手段となるよう、身近な事例を取り上げながら講義を行います。	1. 統計的思考法に基づいて身の回りにある統計情報を分析・説明することができる。 2. 平均の特徴と解釈の際の留意点について説明できる。 3. データの「ばらつき」を理解する必要性を説明することができる。 4. 相関関係の数値的要約の方法と解釈の際の留意点を説明できる。 5. 統計法を用いたデータの一般化について説明することができる。			◎		○			△
	統計情報を見る目	高木源	本講義では、情報を統計学的に見る方法と基礎的な分析方法について解説を行います。そのために、身近な問題への統計学的な理解の仕方を紹介し、データから新たな発見を見出すことが理解できるように講義を行います。	1. 統計的思考法に基づいて身の回りにある統計情報を分析・説明することができる。 2. 代表値の特徴と解釈の際の留意点について説明できる。 3. データの「ばらつき」を理解する必要性を説明することができる。 4. データ間の関連を検討する方法と解釈の際の留意点を説明できる。 5. 統計法を用いたデータの一般化について説明することができる。			◎		○			△
専門基礎科目	心理学実験	大関信隆、佐藤俊人、重宗弥生、柴田理瑛、中村修、半澤利一、山口奈緒美、吉田綾乃、朝岡陸	全体を2つのグループに分けて集団で実験を行う。1つの実験課題を2週間かけて実施・分析し、全6種の実験課題を経験する。その全てについてレポートを作成する。 第1・2回目の授業では実験法に関する概論を、最終回の授業では全体の振り返りを行う。実験科目と主担当者は以下のとおりである。 系列学習(重宗弥生)、ミュー・リヤー錯視(半澤利一)、印象形成(山口奈緒美)、認知的葛藤(大関信隆)、社会的影響(吉田綾乃)、色残効(柴田理瑛)	1)実験法自体の手法や、心理学方法論における実験法の位置づけを説明できる。 2)「独立変数」や「従属変数」などの意味や、「要因操作」や「条件統制」という行為の意義を説明できる。 3)基本的な心理学の実験を自ら計画し実施することができる。 4)実験から得られるデータを適切に収集、処理することができる。 5)実験結果を適切に解釈し、基本的な科学的レポートを作成することができる。	○	◎	◎	△			△	
	心理学研究方法	吉田綾乃、重宗弥生、柴田理瑛、中村恵子、山口奈緒美、渡部純夫、朝岡陸	心理学研究法は、心理学の方法論について総合的な理解を図るための講義と実習からなる授業である。観察法と調査法、データ分析実習を中心に、心理学の研究の具体的な方法について理解と習得を目指す。特に調査法では調査内容の決定からデータ収集そして分析までの一連の作業をグループワークを取り入れながら実施してもらおう。受講生の積極的な取り組みを望む。	1. 観察法・調査法の内容や特徴を説明でき、心理学研究に応用できる。 2. 問題意識に基づいて仮説を立案することができる。 3. 質的データおよび量的データの分析ができる。 4. 研究成果を報告書にまとめることができる。 5. 心理学研究における倫理を守ることができる。 6. 積極的にグループワークに参加し、自他の考えを尊重しながら話し合うことができる。	○	◎	○	○			○	○

心理検査法実習	半澤利一、大関信隆、佐藤俊人、武村尊生、内藤裕子、中村修、三谷聖也、渡部純夫、名和界子	心理検査法は、心理査定(アセスメント)の基本となる技法であり、心理学の臨床的応用である。この実習においては、まず具体的な方法についての理解を目指し、個人に対するデータの収集から分析までの一連の作業についてワークを取り入れて実施してもらう。同時に心理検査を実施する際の倫理的な配慮についても修得する。	面接法・発達検査・知能検査・投影法・質問紙法・作業検査法それぞれの内容や特徴を説明できる。 得られたデータの分析ができ、結果を報告書にまとめ、研究や個人差の理解に応用できる。 心理検査や研究における倫理を守ることができる。	◎	○	△	◎	○			△
心理学概論	中村修	知覚・感情・学習・記憶・思考・発達・社会・性格・臨床などの各領域における心理学の基礎知識を習得し、「人の心と行動」に関する理解を深める。また、これらの領域に共通する「心理学的な考え方」「科学としての心理学のアプローチ」の理解を目的とする。	心理学の成り立ちのついて概観できる。 人の心の基本的な仕組み及び働きについて概説できる。 心理学で用いられる基礎的用語(基本的概念)を理解した上で、その言葉の日常的用法との違いを説明できる。 講義にて紹介された心理学概念・理論に対して、具体的な行動例を指摘することができる。 心理学を構成する下位領域から、異なる領域の概念を用いて1つの行動を説明することができる。	◎		◎	△	○		△	
心理学概論	吉田綾乃	心理学は、行動と心的過程についての科学的学問である。心理学は誰もが持つ「こころ」という身近なものを対象としているために、親しみやすい。しかしながら、同様の理由から科学的な研究を行うことが難しくもある。この講義では、まず始めに科学的な学問としての心理学が、何を問題としているのか、どのような理論的枠組みで、どのような方法論に基づいて研究を行っているのかを概説する。その上で、心理学の様々な領域について、入門的な知識から専門的な知識までを体系的に紹介する。	1.心理学の成り立ちのついて概観できる。 2.心理学の主要分野を概観し、それぞれの研究アプローチの相違について説明できる。 3.心理学で用いられる基礎知識、基本的概念を理解した上で、日常的用法との違いを説明できる。 4.ある特定の行動について、心理学を構成する諸領域の知識を用いて複数の観点から考察できる。	◎		○		○			
福祉心理学	渡部純夫	人々の幸せ追求と生活の質の向上に貢献できる福祉心理学の知識と援助方法を身に付けることで、心理実践力のうち、人間理解力について理解を深める。	・心理学の理論や実践を福祉の現場に入れ込む方法を説明できる。 ・心理学の理論と手法から、一人ひとりの心理面を考慮した心理的援助が、具体的に・実際的にどう行われ、どのような効果をあげられたのか説明できる。	◎	○	○	◎	△	◎	◎	
福祉心理学	中村恵子	福祉臨床を支える心理学の理論として、ソーシャルワークでの面接技法の土台となった心理学の理論を理解する 心理実践力のうち、主に、人間理解力、問題発見・解決力について理解を深める	①人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する ②人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する ③日常生活と心の健康との関係について理解する ④心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解できる	○		○	○			◎	
福祉心理学	佐藤俊人	(社会福祉学科のカリキュラムマップ参照)									
発達心理学	中村修	生涯発達心理学は、生涯というスパンでの人の変化を理解しようという分野である。例えば、老人の心理を理解しようとする時には、それまでの期間をどのように生きてきたのかということを追って「つながり、積み重ね」という視点で理解する必要がある。つまり、「発達とはどういうことか」という基本的な理解を図るためには、①(年齢区分でもあらわされる)ある発達段階の特徴とその「発達課題」を理解すること、②認知・感情・自己といった人間機能の諸側面ごとの発達過程における変化の様相を理解すること、が必要となっていく。	誕生から死に至るまで生涯における発達及び各発達段階での特徴について説明できる。 認知機能の発達及び感情・社会性の発達について概説できる。 自己と他者の関係の在り方と心理的発達について説明できる。 発達障害等非定型発達について基礎的な事項や考え方を概説できる。	◎		○	○	○		△	
発達心理学	佐藤俊人	人間は人生の最後の瞬間まで、自分がおかれた環境に適応しながら行動や考え方を変化させることができる。その意味では、生涯にわたって発達を続ける存在である。この講義では、主として人間関係に注目しながら乳児期から老年期までの発達の様相を概観する	人間は、周囲のさまざまな影響を受けながら生涯にわたって発達することを理解し、発達支援に応用することができる。	◎		◎		○		○	
臨床心理学概論	渡部純夫	臨床心理学の基本概念を理解し、それに基づいたアセスメント・見立て及び心理療法について深く学ぶ。そして、人間研究がどのように行われているかその特質についても理解する。	1.臨床心理学の基本的考え方を理解し説明できる。 2.人間研究について、どのような視点や注意が必要かについて理解し説明ができる。 3.臨床心理学的視点からの対応における可能性と危険性について理解し説明ができる。	◎	◎	○	◎				
臨床心理学概論	秋田恭子	臨床心理学は人の行動や心を理解する学問である。対人援助職に将来就く人は特に援助する相手を理解し、共感することが求められる。臨床心理学の授業で得られた知識によって、まずは自分の心や行動と照らし合わせてより深く自分自身を理解して理論に基づき説明できるようになること、その上で人はどのように感じ、そして行動するのかということ理論に基づいて説明できるようになることを到達目標とする。	1.臨床心理学の基本的考え方を理解し、説明できる。2.人間の心の状態や行動をどのような方法でとらえてきたのかを理解し、説明できる。3.年代ごとの特徴および抱える問題を理解し、説明できる。4.悩む人に対してどのようなアプローチが可能かを説明できる。5.対人援助職の倫理的な問題について説明できる。	◎	○	◎	◎	○	○	○	
社会・集団・家族心理学(社会・集団心理学)	吉田綾乃	なぜ第一印象が重要なのか？どうしてキャッチセールスに引っ掛かり不要なものを買ってしまうのか？グループ作業になると手を抜いてしまう人が増えるのはなぜか？私たちの社会的行動には不可解な現象が多い。これらの行動は多くの要因の複雑な影響を受けている。社会心理学は、様々なアイディアに基づいた精緻な実験や調査によって、その現実を取り出し、背後にあるメカニズムを明らかにしようとする学問である。この講義では、できるだけ多くの興味深い研究知見を取り上げながら、私たちの持つ心のメカニズムについて概説する。	1.対人関係ならびに集団における人の意識及び行動に関する心の過程について説明できる。 2.人の態度及び行動の変化についての理論や原理について説明できる。 3.集団および文化が個人に及ぼす影響について説明できる。	◎		○		○	△	△	

感情・人格心理学	三谷聖也	本講義は感情および人格とは何かをテーマに心理学のさまざまな領域を横断的に学んでいく講義科目である。人間のここには普遍性と個性がある。前半に扱う感情心理学は人間のここに共通する普遍性を探究する学問領域であり、後半の人格心理学はその人らしさどこから来るのかという個性性を探究する学問領域である。本講義を通して人間のここそしてその人らしさを理解するためのさまざまな心理学の学説にふれることができる。さらに、感情・人格にかかわる教育、福祉の領域における臨床的問題との関連を学ぶ。	1. 感情に関する理論及び感情喚起の機序について概説できる。 2. 感情が行動に及ぼす影響について概説できる。 3. 人格の概念及び形成過程について説明できる。 4. 人格の類型、特性等について概説できる。 5. さまざまな臨床的問題との関連を説明できる。	○			○	◎				
教育心理学概論B	平川昌宏	(社会福祉学科のカリキュラムマップ参照)										
知覚・認知心理学	重宗弥生	脳は目や耳などの感覚器から情報の入力を受けとり、外界の知覚を行っています(ボトムアップ)。また、脳は知識や記憶をもとに思考や判断を行い、感覚器の調整や、行動としての出力を行っています(トップダウン)。本授業では、感覚器と脳の生理学的・解剖学的な構造を理解してもらった上で、感覚・知覚と認知・思考に関連する様々な心理現象や障害、それらにまつわる心理学研究を紹介することで、ボトムアップからトップダウンまでの脳内での情報処理メカニズムを総体的に理解してもらいます。	①ボトムアップな感覚・知覚の脳内での処理メカニズムを理解し、その知識を活用できる(人の感覚・知覚等の機序及びその障害の理解) ②トップダウンな認知・思考の脳内での処理メカニズムを理解し、その知識を活用できる(人の認知・思考等の機序及びその障害の理解)	◎			◎					○
学習・言語心理学	中村恵子	人間の行動が学習の結果獲得されているという学習理論を学び、適応を学習行動と結びつけて理解する。 不適応(=問題行動)とは、誤学習の結果引き起こされるので、適応支援では、誤学習を解除し、適応行動の学習を操作する。本授業では、そのフォーミュレーションと、解除の方法を講義する。また、言語による学習とその修正についても講義する。	1. 学習の基本的な仕組みを説明できる。 2. 学習行動の操作について説明できる。 3. 言語による学習について説明できる。	◎			○					○
心理統計学の基礎	白井秀明	心理学の様々な領域において、研究を進めるうえで統計学の知識が必要となる場合がたいへん多い。本講義では、心理学論文を読んで情報を抽出したり、実験、調査、観察などの計画や結果の分析を行ったりする際に、利用頻度の高い統計学の知識を学習する。基礎編となる本講義では、仮説、帰無仮説、対立仮説、作業仮説などの仮説検定において重要な諸概念の役割を学習しながら研究計画の立て方、仮説検証の論理などについての理解を深めてもらう。	心理統計学の基礎編となる本講義では、研究計画の立て方、仮説検証の論理などについて学び、そのプロセスの中での仮説、帰無仮説、対立仮説、作業仮説などの仮説検定において重要な諸概念の役割を学習しながら研究計画の立て方、仮説検証の論理などについての理解を深めてもらう。	○	○		○					
心理実践活動論	吉田綾乃、清水めぐみ、非常勤	心理実践活動に携わる講師の講話と質疑応答を通して、心理実践の現場にあるさまざまな問題、心理学を活かした取り組みを学び、心理学の理論(知識、技能)と実践のつながりを体験や討論をとおして理解する。	1. 社会における主な心理実践活動の内容を知り、それらの特徴について述べる事ができる。 2. 人間と社会における様々な問題について調べ、心理学と関連づけて述べる事ができる。 3. 心理実践とその基盤となる心理学との関連について述べる事ができる。	◎			○	△				△
健康・医療心理学	中村修、高木源	健康を支援する取り組みにおいては「不健康状態の解消」だけが目標になるのではなく、近年では「今ある健康を維持する」あるいは「ますます健康になる」という目標が重視されてきている。本講義では「健康である者はなぜ健康なのか」という問いのもと、心理学の新たな分野である健康心理学の知見とその活用について詳述していく。また、健康を支援する実際の現場での心理学の立場から指摘される課題と支援について、医療・保健現場・災害時支援の各領域ごとに整理する。	健康心理学の基本概念を習得し、他の心理学領域との差異を説明できる ストレスを心身の疾病の関係を説明できる 自己のライフスタイルの形成・修正に習得した理論/概念を役立てることができる 医療現場・保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる 災害時等に必要なる心理支援を説明できる	◎			○	△	○	△	○	
健康教育概論	高木源	私たちは常に健康でありたいと望むが、その一方で「時間がない」とか「めんどろである」など様々な理由により、適切な健康行動を取っていないことが多い。この授業では、健康心理学から得られた「健康の維持、増進、病気の予防」に関する多くの知見をいかにして広め、実践してもらえるかを考えていく。また、健康を絶対的に捉えるのではなく、相対的に理解すること、すなわち、人生の様々なライフサイクルや、その時、その人が置かれた状況で、健康観が異なることを理解する。	①健康を相対的にとらえることが必要なる理由を説明できる ②健康なライフスタイルについて具体的に説明できる ③自分に合った健康なライフスタイルを検討・実践する ④健康教育の計画を立てられる	◎			○				○	
現代の精神保健の課題と支援 I		(社会福祉学科のカリキュラムマップ参照)										
現代の精神保健の課題と支援 II		(社会福祉学科のカリキュラムマップ参照)										
心理学統計法	白井秀明	心理学の様々な領域において、研究を進めるうえで統計学の知識が必要となる場合がたいへん多い。本講義では、心理学論文を読んで情報を抽出したり、実験、調査、観察などの計画や結果の分析を行ったりする際に、利用頻度の高い統計学の知識を学習する。また、学習した知識の実践的利用可能性を高めるべく、統計解析ソフトによる実習も行う。応用編となる本講義では、利用頻度の高い統計的検定をいくつかピックアップし、統計解析ソフトの操作手順や結果の読み方・記述の仕方など、コンピュータを使って実践的に学習する。さらに、多変量解析の初歩についても触れる予定である。	1)心理学の論文を構造的に読解できる 2)研究目的にあった実験計画、統計的手法をつかって、心理学の論文、レポートを作成できる	○	○		○				○	
社会・集団・家族心理学(家族心理学)	三谷聖也	家族心理学では、家族をシステムとして理解する視点(家族システム理論)を学び、家族をどうとらえるか、家族をどう見立てるか、家族をどう援助するかについて学ぶ。また、家族が直面する危機とその対応について事例を交えて解説する。	1)家族をシステムとして説明することができる 2)家族が個人に及ぼす影響を説明することができる 3)家族に生じる危機、援助のポイントを説明することができる	◎			○					○
応用認知心理学	柴田理瑛	この講義では、生体の行動を観察することによって心のはたらきを研究することの意義を学び、認知心理学が私たち人間の理解にどのような貢献をしているかについて学ぶ。また、特定の分野だけでなく、基礎から応用まで幅広く紹介することを目的とする。本講では、講義形式をとるが、簡単な認知心理学に関する実験やデモを取り入れることで、講義内容の理解を深めることを目指す。	1. 認知の基本的な仕組みについて理解する。 2. 実験結果を図表をもとに読み解くことができる。	◎			○				○	

専門基幹科目  
A群





リエゾンゼミⅢ	飯嶋亮子	疾患について事前に調べまとめることによって、疾患への理解を深める。事例を用いてアセスメントの過程と根拠について考え、思考・判断力を養う学習を行います。また健康課題を抱える児童生徒の心身の状態について理解し、支援方法について考察していきます。	1.学校検診に関連する心臓病・腎臓病・糖尿病について理解し説明できる 2.急性・慢性疾患を持つ児童生徒への対応について方法や留意点が説明できる3.健康課題を抱える児童生徒の心身の状態を理解し、健康課題にに対応方法について説明できる	○		○	○						
リエゾンゼミⅣ	飯嶋亮子	前期は、養護実習および教員採用試験に役立つ講義・演習において、個人およびグループで課題に取り組み学び合います。後期は個人またはグループの研究テーマについて、立案した研究計画に沿って研究を進め、その成果をゼミ論集にまとめます。ゼミ論集作成は役割分担において学生が主体的・計画的に活動します。	1.教員採用試験対策を通し、自学ノートに文章化することができる。 2.講義・演習を通し、実習計画や学習指導案、研究計画に反映する(文章化する)ことができる。 3.自ら選んだ研究テーマについて計画的に取り組み、結果についてプレゼンテーションおよび心理学の基本的な概念(精神機能に関する種々の知識)について正確な知識を持つことができる。	○	◎	○	○						
リエゾンゼミⅡ	大関信隆	前期は主に心理学の基礎的概念の復習から始めます。後期は自閉症を中心とする専門書を読みながら、そこに書かれている事柄を心理学的知識に当てはめながら読み進めていきます。これらを通して、発達や精神の病理を、心理学の視点から考察するために必要な基本的知識を養います。	・発達障害に関する基本的な概念(診断基準や精神機能の特性)について正確な知識を持つことができる。 ・発達障害の行動像を、心理学の概念を用い	◎	△		△				△		
リエゾンゼミⅢ	大関信隆	・前期は心理学的検査の中から代表的な心理検査の一つを取り上げ、それが作られた過程や関連する文献を読み、検査というものがどのように作られているのかを学びます。また、当該検査の実施方法を学び、実際にデータを取り、その基礎的な解釈方法を学びます。 ・後期は「査定」や「特性理解」というキーワードを用いて、各自でテーマを決め、簡単な研究を行います。研究の流れを会得することを目的とします。これらの学びを通して、心理学独自の対人理解の方法を会得します。	・特定の心理検査について、その概要や実施方法を説明できる。 ・特定の心理検査について、それを実施し基礎的な解釈を行うことができる。 ・心理学の研究論文を自分の力で概ね読むことができる。 ・自分の関心事を心理学的側面から捉えなおし、自ら簡単な研究を計画し実行することができる。	◎	○	△	△				○	△	
リエゾンゼミⅣ	大関信隆	本演習では各自の持つ心理学的テーマ(心理学的な関心事)を中心に、ゼミ論に取り組みすることを課題とします。本課題を通して、物事の問題点を見つけ、必要な情報を選別し、それを使える情報に仕立て、見えてくる結果を伝える技術(力)を身に付けて下さい。	・人間行動の諸問題について、自らテーマを設定し、問題を特定し、その心理学的構造を探る技術を通して行動メカニズムを探究できる。	◎	◎	○	△						○
リエゾンゼミⅡ	鎌田克信	現在の子どもたちのからだや心に生じている健康上、発達上の問題について、自分たちで資料を集めたり、フィールドワークをしたりしながらその実態を捉え、集団で考えます。その際、グループ毎にテーマを決めて調査を行い、子どもたちの健康上、発達上の課題や問題が生じるようになった要因や背景について分析・考察を行い、その報告を受けて全体で討議を行います。さらに、そのような問題や課題を養護教諭たちがどのように捉え、子どもたちに働きかけてきたのかを実践記録から学び、養護教諭の仕事の重要性について学びます。	1.多様化している現在の子どもたちのからだ心の現状・事実をしっかりと捉え、様々な問題がどのように生じているかについて、その要因・背景を含めて考えることができる。 2.子どもたちのからだに現れている問題について、教育現場ではどのように受け止めるか、その解決に向けて支援が行われているか調査し、それに対する考えをもつことができる。 3.フィールドワークやディスカッションを通して、養護教諭の仕事に対する理解を深め、その役割の重要性を理解することができる。	○	◎	○	○	△	○	○			
リエゾンゼミⅢ	鎌田克信	最初の数回と最後のまとめは教員の方で授業展開するが、途中から3人1組程度で、子どもたちにふさわしい保健教育教材を選定し、教材研究を深め、指導案(授業案)という形式に集約する。さらに、それを他の受講生を生徒と見立てて模擬授業を行い、その授業プロセスを受講生全員で議論する。このようにして、指導の実践力を身につけるとともに、授業観を深め、授業づくりの具体的な力量を身につける。	1.子どもたちに集団的な保健指導と保健学習(保健の授業)を行うための的確な指導力を身につける。 2.教材研究の仕方や模擬授業による実践力を身につける。 3.保健指導や保健学習の模擬授業を行い、集団討議をしながら子どもを見つめたり、健康課題をより深く理解したりする力を養う。	○	◎	◎	○	△	○	○			
リエゾンゼミⅣ	鎌田克信	前期は、養護実習および教員採用試験に役立つ講義・演習において、個人およびグループで課題に取り組み学び合います。後期は個人またはグループの研究テーマについて、立案した研究計画に沿って研究を進め、その成果をゼミ論集にまとめます。ゼミ論集作成は役割分担において学生が主体的・計画的に活動します。	①教員採用試験対策を通し、自学ノートに文章化することができる。 ②講義・演習を通し、実習計画や学習指導案、研究計画に反映する(文章化する)ことができる。 ③自ら選んだ研究テーマについて計画的に取り組み、結果についてプレゼンテーションおよび論文化することができる。	○	◎	◎	○	△	○	◎			
リエゾンゼミⅡ	佐藤俊人	人間の発達について、発達心理学の枠組みの中で理解し、最終的には個人の興味のある視点から実証的なレポートを作成することを旨とする。そのために、前期ではまず心理学の基本的な理論、トピックを再確認し、その上で後期は自分のテーマを見つけ出す。	自分の研究課題を明確にできる。 研究課題に従って、研究実施～プレゼンテーションできる。	◎	◎		◎			◎			
リエゾンゼミⅢ	佐藤俊人	心理に関する演習である。各自の問題意識に基づき、人間の行動様式や考え方について、実験および質問紙調査等により実証的に検討する活動が中心となる。前期は心理学諸理論の再確認と文献研究によって具体的な研究課題を決定し、後期に研究計画～実施する。	心理学的な現象について自分のことばで説明できることに加え、各自の研究課題および仮説を考え、それを確かめるためにデータ収集～分析～論文作成～プレゼンテーションできる	◎	◎		◎			◎			
リエゾンゼミⅣ	佐藤俊人	原則として3年生の演習からの継続である。心理に関する演習である。心理・発達に関して文献研究、実証的研究を行い、その成果をホームページとして発表することが活動の中心である。研究の基本を再確認するとともに、プレゼンテーションができることをめざす。	心理学的な現象について自分のことばで説明できることに加え、各自の研究課題および仮説を考え、それを確かめるためにデータ収集～分析～論文作成～プレゼンテーションできる	◎	◎		◎			◎			
リエゾンゼミⅡ	重宗弥生	実験心理学は、目的とする要因を含む条件と、そのコントロール(対照)となる条件を設定し、それぞれの条件で得られたデータを比較することで、人や動物の知覚・認知について検証する学問です。本授業では、既にある心理実験を追試し、その結果のプレゼンテーションをすることを通して、実験心理学的な研究手法について理解し、実施できる能力を習得してもらいます。	①課題として扱う事項に対して理解し、研究を実現するための知識と技術を身につける ②研究を実施するために必要な手続きについて理解する ③取得したデータを解析し、論理的に考察した結果についてまとめ、発表できる	○	◎	○				○	△		
リエゾンゼミⅢ	重宗弥生	実験心理学は、目的とする要因を含む条件と、そのコントロール(対照)となる条件を設定し、それぞれの条件で得られたデータを比較することで、人や動物の知覚・認知について検証する学問です。本授業では、自身が興味を持って追試したい心理実験を文献検索により選定し、追試した結果をプレゼンテーションをすることで、実験心理学的な研究を実現し、遂行できる能力を習得してもらいます。	①専門領域の文献を読解し、理解したことを資料にまとめ、発表できる ②課題として扱う事項に対して論理的に疑問を持ち、自ら調査・研究することができる ③取得したデータについて適切な解析を選択し、論理的に考察した結果についてまとめ、発表できる	○	◎	◎		○	○		△		

リエゾンゼミⅣ	重宗弥生	実験心理学は、目的とする要因を含む条件と、そのコントロール(対照)となる条件を設定し、それぞれの条件で得られたデータを比較することで、人や動物の知覚・認知について検証する学問です。本授業では、自信が興味のある心理現象について研究計画をもとに検証を行い、その結果のプレゼンテーションをすることを通して、実験心理学的な研究を立案し、遂行できる能力を習得してもらいます。	①自身の興味をもとに、心理学的な現象について検証すべき疑問を提案できる ②課題として扱う事項に対してどのように調査・研究すべきか提案できる ③取得したデータに対して多角的な解析を行い、それらの結果を統合した考察を行うことができる ④研究の内容と結果について説得力のある発表を行い、質問や指摘について適切に対応できる	○	◎	◎	○	◎	○	△
リエゾンゼミⅡ	柴田理瑛	和文・英文の文献を読解する。いずれも受講生の興味に応じて選んだものを読んでもらう。読んだ内容をパワーポイント等にまとめ、発表する。読解から発表までを3回かけて行い、計4回行う。	①文献を読んで理解したことを要約し他者に伝えることができる。 ②他者の発表に関心を持ち、質問することができる。 ③文献だけでなく、日常生活においても疑問や興味を持ち、それを言葉にすることができる。	◎	◎	△	◎		○	
リエゾンゼミⅢ	柴田理瑛	英語の文献を読解し、追試実験・調査を行う。いずれも受講生の興味に応じてすすめる。読んだ内容や追試の結果はパワーポイント等にまとめ、発表する。前期は読解から発表までを3回かけて行い、計4回行うこととする。後期は追試実験・調査は原則1回とし、得られた結果を分析し、発表する。	①文献を読んで理解したことを要約し他者に伝えることができる。 ②他者の発表に関心を持ち、質問することができる。 ③実験を計画し、仮説を検証することができる。	◎	◎	△	◎		○	
リエゾンゼミⅣ	柴田理瑛	前期は実験・調査の計画を行う。いずれも受講生の興味に応じてすすめる。後期は実験・調査の結果を分析し、レポートにまとめる作業を行い、発表を行う。	①文献を読んで理解したことを要約し他者に伝えることができる。 ②他者の発表に関心を持ち、質問することができる。 ③研究を計画し、仮説を検証することができる。	◎	◎	△	◎		○	
リエゾンゼミⅡ	高木源	臨床心理学では様々な理論が示され、心に関連する問題に対する実践や研究が行われている。この演習では、前期は臨床心理学の理論と実践、後期は臨床心理学の研究について基礎的な内容に焦点を当てる。これらを通じて、心理実践力のうち、多文化共生社会における総合的な人間理解力、批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力、多様な人々への共感と自己尊重に基づくコミュニケーション能力を養うことを目的とする。	1)臨床心理学の主要理論を説明することができる 2)臨床心理学において支援の対象となる諸課題と実践方法を説明することができる 3)臨床心理学の研究論文を読み、適切に要約することができる	◎		○	○			△
リエゾンゼミⅢ	高木源	この演習では、前期は臨床心理学の実践、後期は臨床心理学の研究について応用的な内容に焦点を当てる。これらを通じて、心理実践力のうち、多文化共生社会における総合的な人間理解力、批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力、多様な人々への共感と自己尊重に基づくコミュニケーション能力を養うことを目的とする。	1)臨床心理学の基本的な実践方法を理解している 2)臨床心理学の研究手法を用いて仮説を検証し、文章にまとめることができる	◎		◎	○			△
リエゾンゼミⅡ	武村尊生	近年、チーム医療が様々な現場で実践され、心理職もチームメンバーの一員と位置づけられることが多くなってきました。心理職が各チームで果たすべき役割を学び、他職種連携と協働の観点から、心理職として求められる姿勢、態度について議論し、理解を深めます。講義等で学んだ内容を、実践力として発揮できるようになる事をめざします。	1. チーム医療の概要を述べることができる。 2. 自分がまとめた内容を適切にまとめ、他者にわかりやすく伝えることができる。 3. 他者に情報を伝える際の、情報のバランスを配慮できるようになる 4. 心理職以外の関連領域への視野を広げ、他の職種の職務内容の専門性に配慮し、討論できる。	○	◎	○	◎	○	◎	○
リエゾンゼミⅢ	武村尊生	総合病院精神科におけるコンサルテーション・リエゾンの視点から、チーム医療における心理職の果たすべき役割について学びます。その過程の中で、心理職として必要な問題解決能力、コミュニケーション能力、組織間調整力、社会貢献能力をどのように獲得していくかについて議論します。学んだ知識を、将来の実践で発揮できることを目指します。	1. チーム医療の特性を理解し、心理専門職としての役割を他職種に説明することができる。 2. 身体疾患が及ぼす心理的問題を理解し、解決に向けて議論することができる。 3. 他職種・他機関と協調しながら、問題解決を行う姿勢・態度を示すことができる。 4. 各テーマを学術的観点から考察、説明、記述することができる。	○	◎	○	○	○	◎	○
リエゾンゼミⅣ	武村尊生	事例研究を通じ、様々な分野で実践されている心理学的支援について学ぶ。その中で、各分野での心理専門職の役割について理解を深める。各自の関心あるテーマに基づき、調査・研究を行う。研究成果は適宜発表を行い、進捗等について他の演習参加者と検討を行う。建設的なディスカッションを通じ、研究をはじめとした専門的共同作業に必要な姿勢を学ぶ。	1. 臨床心理学的な研究方法を用いて、自ら研究テーマを設定できる。 2. 研究から得た結果を、複数の視点から多角的に考察することができる。 3. 自らの研究の効用と限界が説明できる。 4. 広い分野で用いられている心理学的支援法について、非専門家にも平易な言葉を用いて説明できる。 5. 多職種連携を実践するため、その場に適切な姿勢・態度を示すことができる。	○	◎	◎	○	○	◎	○
リエゾンゼミⅡ	内藤裕子	養護教諭の職務の実際、とくに保健管理の健康診断、学校環境衛生、疾病の予防について、法的根拠に基づいた具体的方法を学びます。	健康診断、学校環境衛生の法的根拠に基づいた具体的方法について調べ、レジュメを作成し、さらにパワーポイントを用いてプレゼンテーションすることができる。また、自ら技術を習得し、他者にデモンストレーションすることができる。	○	◎					◎
リエゾンゼミⅢ	内藤裕子	保健室に来室する子どもへの対応についてロールプレイとディスカッションを重ね、子どもの心と体を見る目、判断力、処置技術、コミュニケーション能力、学校組織内の動き方を身につけ、一連の流れの中で「養護」の意味を考えます。	提示された仮想場面において、適切なアセスメントと場面対応(処置)のロールプレイングをすることができる。	◎		○	◎		○	○
リエゾンゼミⅣ	内藤裕子	前期は、養護実習および教員採用試験に役立つ講義・演習において、個人およびグループで課題に取り組み学び合います。後期は個人またはグループの研究テーマについて、立案した研究計画に沿って研究を進め、その成果をゼミ論集にまとめます。ゼミ論集作成は役割分担において学生が主体的・計画的に活動します。	①教員採用試験対策を通じ、自学ノートに文章化することができる。 ②講義・演習を通じ、実習計画や学習指導案、研究計画に反映する(文章化する)ことができる。 ③自ら選んだ研究テーマについて計画的に取り組み、結果についてプレゼンテーションおよび	○	◎	◎	○		◎	○
リエゾンゼミⅡ	中村修	文献講読とプレゼンテーションを繰り返し行っていく。まず読解について、前期は「心理学を変えた40の研究」という書籍で紹介されている心理学の古典的・代表的な研究のいくつかについて、後期は心理学系学会誌に掲載された論文を読解する。いずれも受講生の興味に応じて選んだものを読んでもらう。プレゼンテーションでは、読解した内容を他の受講生に的確に伝えて共通できるように、資料の作成および発表をくり返し行ってもらい、グループディスカッションを通じて理解の深化、発表技法の共有を図るので、能動的に参加してほしい。	理解を進めるための補足資料を自ら探す習慣及び探す方法を身につける 文献を読解し理解したことをレジュメ形式等にまとめなおして他者に伝えることができる 他者の発表に対し、その論旨にのっとった上での発問ができる	◎	◎	○	◎	◎	○	△

リエゾンゼミⅢ	中村修	前期は健康心理学領域で注目されているポジティブ心理学に関する文献講読を行う。ポジティブ心理学とは何かに迫ることを目的とし、特に着目されている要因を理解することを目指す。グループディスカッションにて理解の深化、共通化を図るので能動的に参加してほしい。後期は前期で理解した要因をもとにデータをとって研究を行う。同時に、心理学実験・研究法で学んだ心理学研究の「礼儀作法」を実践してもらう場とする。ポジティブという用語で連想することは様々だろうが、単に「前向き」であればいいかどうか、一緒に考えてほしい。	文献で述べられている内容を正しく理解した上で、論理的かつ批判的に自己の意見を述べる ことができる データ収集から分析までの一連の手順を主体的に行うことができる 心理学での論文記述形式にならって自己の研究を記述することができる	◎	◎	◎	○	△	◎	○	
リエゾンゼミⅣ	中村修	「福祉大で心理学を学んだ」集大成になるものをまとめてもらうことを目的とする。具体的には、発達心理学・健康心理学の領域から受講生が「各自で」設定したテーマに基づいて研究(調査研究、文献研究)を実施してもらう。前期はテーマ確定とテーマにあわせた研究法の確立、後期には研究をしあげると同時に、明らかにしたことを効果的にプレゼンできるようなまとめてもらう。なお、テーマは個別であるが、研究を進める作業においてはグループ活動、グループディスカッションを行うので、他の受講生のテーマにも関心をもって積極的に参加してほしい。	自ら設定した問いに対して的確な研究計画をたてること ことができる 上記の研究計画を基本的に独力ですすめること ができる 得られた知見を他者に的確に伝えるためのプレゼンテーション技法を自ら選択・工夫できる。	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	
リエゾンゼミⅡ	中村恵子	学校カウンセリングについて実践的に学ぶ 学校現場で起きている問題について理解し、実践的に解決方法を学ぶ 心理実践力のうちの人間理解力、情報発信力、問題発見・解決力、対人調整力、社会貢献力を身につける	①発達段階ごとの学校適応を説明することができる。 ②不適応を引き起こす悪循環を構造的に説明 できる ③悪循環の解除について説明できる	○	○	○	○	○	◎	◎	
リエゾンゼミⅢ	中村恵子	学校カウンセリングについて実践的に学ぶ 学校現場で起きている問題について理解し、実践的に解決方法を学ぶ 心理実践力のうちの人間理解力、情報発信力、問題発見・解決力、対人調整力、社会貢献力を身につける	①発達段階ごとの学校適応を説明することができる。 ②不適応を引き起こす悪循環を構造的に説明 できる ③悪循環の解除について説明できる	○	○	◎	○	○	○	◎	
リエゾンゼミⅣ	中村恵子	自分自身の関心や適性と社会や各種職域を結びつけ、その要請に対して福祉・心理・社会の多次元に渡る広い視点を持って対応できることを目指す 心理実践力のうちの人間理解力、情報発信力、問題発見・解決力、対人調整力を身につける	①個性を理解し、自分なりのキャリアデザインを策定する ②自分自身と向き合い、キャリア形成をする ③キャリアデザインについて仲間と分かち合いながらアイデンティティを形成する	○		○			◎		
リエゾンゼミⅡ	半澤利一	犯罪心理学は何をどう捉え、犯罪や非行をどう説明し、処遇をどう考えてきたのかをテキストに沿って学ぶことを基本にしなが、関連した文献や重大事件を取り上げて読み込む。また、実務家をゲストスピーカーとして招くことにより、犯罪心理学や臨床心理学の知見が非行臨床の現場でどのように活用されるかを知り、理解の浸透を図る。	①非行や犯罪という行動化の心理・社会的メカニズムを説明できる。 ②現象を分析して抽象的に再構成し、的確な言葉で表現できる。	◎		○	○			◎	
リエゾンゼミⅢ	半澤利一	犯罪行為を社会的文脈で捉え、犯罪心理学は何をどう解析してきたかを、さまざまな文献を取り上げて読み込むことで知る。主に実務的な課題をテーマとして取り上げ、犯罪や非行行動の理解や処遇法及び家族臨床の方法論を学ぶ。理論を適用する工夫を学ぶため、担当者による課題の発表や討議、ロールプレイなどの方法を用いる。さらに実務家をゲストスピーカーとして招いて聴講することで、犯罪心理学や家族心理学、臨床心理学の知見が実際の現場でどのように活用されるかを知り、理解の浸透を図る。	①犯罪や非行について行動化を伴った社会的不適応として捉え、形成要因を分析して対応や処遇の方策を策定できる。 ②家庭内紛争の種類や発生の機序、構造を理解し、紛争の解決を見立てることができる。 ③課題を明確にして必要な情報を収集して分析し、課題処理に見合う形に編集して効果的に表現できる。	◎		○	○			◎	
リエゾンゼミⅣ	半澤利一	犯罪行為を社会的文脈で捉え、犯罪心理学は何をどう解析し、対処してきたかを、さまざまな文献を取り上げて読み込む。前期は主に犯罪行動を類型別に学び、後期は主に家庭内紛争についての理解を踏まえた支援法、介入法について学ぶ。適宜実務家をゲストスピーカーとして招いて聴講することで、犯罪心理学や関係科学の知見が臨床の現場でどのように活用されるかを理解し、応用力を高める。また、卒業後の社会人生活を見据え、実用的なプレゼンテーションやマネジメント、職場適応の基本を身につける。	①犯罪や非行について行動化を伴った社会的不適応として捉え、形成要因を分析して対応や処遇の方策を策定できる。 ②家庭内紛争の種類や発生の機序や構造を理解し、紛争の解決を見立てることができる。 ③課題を明確にして必要な情報を収集して分析し、課題処理に見合う形に編集して効果的に表現できる。	◎		○	○			◎	
リエゾンゼミⅡ	三谷聖也	前期はカウンセリングについての基本姿勢と主要理論についての講義を中心に行う。後期は児童虐待、精神疾患、発達障害のテーマを取りあげ理解を深める。これらの前期後期の取り組みを通して、関心のある心理学の領域や関心のある心理支援の領域を見出すことができるとともに、自身の研究テーマを見つけられるようになる。	カウンセリングの主要理論を説明できる。近年社会的関心が高まっている児童虐待、精神疾患、発達障害のテーマを取りあげ理解を深める。これらのテーマについて主体的に調べる ことにより、今後取り組むべき研究テーマを見 つけることができる。						◎	◎	
リエゾンゼミⅢ	三谷聖也	前期は家族の定義を学問的にとらえなおすことからはじめ、家族ライフサイクルの各段階ごとに家族の課題や危機についての理解を深める。また支援者としてかかわるうえで標準的な家族だけでなく家族の多様性についての関心も広げていく。後期は家族のアセスメント、家族療法の基本知識を身につけるとともに、プリーセラピーの支援法について学ぶ。これらの取り組みを通して、家族心理学と自身の研究テーマとの接点を見出すとともに、家族療法やプリーセラピーの支援法を活かせる応用領域についても探求していく。	家族の定義を理解できる。家族ライフサイクルの各段階の課題や危機を説明できる。多様な家族についての関心を広げる。家族をアセスメントとする方法を習得する。家族療法やプリーセラピーの基本となる支援法を習得する。						◎	◎	
リエゾンゼミⅣ	三谷聖也	前半は、カウンセリングを実施するうえでの倫理的課題について理解する。カウンセリングをはじめ前に、守秘義務、安全配慮義務、インフォームドコンセントと治療契約、多重関係のリスクなどについて十分に理解しておく。さらば公認心理師の義務とされる「連携」とは何か、そしてその実践のあり方について学ぶ。中盤からは個人カウンセリングのロールプレイを通して、個人面接の基本的技法を習得する。終盤では合同面接のロールプレイを通して家族面接の基本技法を習得する。	カウンセリングにおける倫理的課題が理解できる ロールプレイを通して個人面接の基本的技法を修得する ロールプレイを通して合同面接の基本的技法を修得する							◎	◎



リエゾンゼミⅡ	山口奈緒美	大学で心理学を専攻するということは、人の心理について深く「学ぶ」ことと、人の心理について「研究する」ことの2つが求められます。そのため、この演習では、前期は先行知見を「学ぶ」こと、後期は「研究する」ことに焦点をおいて取り組みます。これを通して、心理学を学ぶ、また研究する基礎的態度を養うことを目的とします。	1) 心理学の研究論文を読み、その内容を理解することができる 2) 心理学に関する研究論文の内容を適切に要約し、パワーポイントによる発表ができる 3) 心理学領域における研究手法の基礎を習得し、その基準に見合ったデータ収集・分析、発表を行うことができる	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
リエゾンゼミⅢ	山口奈緒美	大学で心理学を専門的に学ぶということには、心理学が明らかにしてきた知見を批判的かつ発展的に理解すること、自分なりの問い(仮説)をたてること、心理学的手法を通してその問いに答えることが含まれます。この演習では、論文講読、仮説生成、心理学的研究の実施、報告書の作成を通してこれらの力を養います。	1) 心理学の研究知見を多角的視点から読み解くことができ、それを発表することができる 2) 心理学の研究手法を用いて、人間行動に関する仮説を検証することができる 3) 自分が行った研究の結果を適切な様式を用いて文章化し、レポートを作成することができる	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
リエゾンゼミⅣ	山口奈緒美	社会心理学の知見に基づいて、社会に発生している問題について自分なりの問題意識を明確にし、その問題を解決するための糸口を実証的な手続きを用いて見出し、考察することを目的とします。	1) 社会心理学的な仮説を立てることができる 2) 仮説を検討するために適切な心理学的調査・実験を行うことができる 3) 調査や実験で得られたデータに対して、適切な統計的処理を行うことができる 4) 統計処理の結果見出された結果を、理解することができる 5) 統計処理の結果見出された結果を、問題意識と関連付けて考察することができる	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
リエゾンゼミⅡ	吉田綾乃	ここ10年の間に、温度や香りなどの感覚が人々の判断や行動に影響を及ぼすことを実証し、心と身体は独立した存在であるという考え方を科学的に突き崩した研究領域が『身体化された認知(embodied cognition)』である。演習ではこの分野の第一人者が執筆した本を講読し、心理学における最新の知見を学ぶ。また、研究の追試を行うことを通して、心理学における研究手法の基本を習得する。	1. 特定のトピックに関する文献を読み、その内容を要約し、説得的なプレゼンテーションを行うことができる 2. 心理学分野におけるデータ収集とデータ分析の手順について理解し、分析結果をまとめ、報告することができる 3. 心理学の知識や考え方を各自の生活を結びつけて考え、利用できる。	◎	○	○	◎	◎	◎	◎
リエゾンゼミⅢ	吉田綾乃	社会心理学の研究分野は、社会的認知、対人行動、集団行動など多岐にわたる。この演習では、社会心理学分野の研究論文を講読ならびに尺度構成法を学ぶことを通して、社会心理学の基礎知識を身に付けることを目指す。また、日常生活において生じる様々な心理学的疑問について、社会心理学の研究手法を用いて検討するスキルを身に付けることを目指す。	1. 社会心理学分野の学術論文を読むことができる。 2. 心理学尺度を用いた研究論文において、研究知見がもたらす貢献とその限界を指摘することができる。 3. 社会心理学分野の研究手法を理解し、自ら設定した研究テーマに対して適用することができる。	◎	◎	◎	○	○	○	○
リエゾンゼミⅣ	吉田綾乃	広く社会心理学に関連するテーマを各自が設定し、そのテーマに沿って実験あるいは調査研究を行う。研究の実践を通して、社会心理学の基礎・応用知識を習得することを旨とする。また、個人的・社会的な問題に対して社会心理学の研究手法を用いて検討するスキルを身に付けることを目指す。	1. 社会心理学的な研究アプローチを用いて、自ら設定した問題に対して科学的な知見を抽出することができる。 2. 自らが得た研究知見の高揚と限界について考察することができる。 3. 自らが得た研究知見を現実の人間行動に照らし合わせながら、第三者に効果的にプレゼンテーションすることができる。	◎	◎	◎	○	○	○	◎
リエゾンゼミⅡ	渡部純夫	物語が人間の無意識と関係していることを理解する。 イメージを語り伝えるために、古今東西物語が物語が使われてきたことを知る。 物語の力やエネルギーについて理解することで、物語の活用から人々の幸せに貢献する方法をについて深める。 物語は人間のこころの裏側も暴き出す力があることを理解する。 物語を心理療法に活用する方法を身につける。	物語や昔話に触れることで、人間のこころの動きを理解し説明できる。 自分を見つめるきっかけを見つけ、それを深め自己について説明できる。 物語の意味を深め、心理的援助に活用する方法を説明することができる。	◎	○	○	◎	○	○	○
リエゾンゼミⅢ	渡部純夫	心理療法における芸術療法の位置づけについて理解する。 箱庭制作について体験的に学ぶ。 非言語的アプローチ技法を深め身に付ける。 作品の心理的理解についてディスカッションを通して体験的に身に付ける。	非言語的アプローチの技法を身につけ、それについて順序だてて説明することができる。 感性をフルに活用して、クライアントの心理的力動を理解し、説明することができる。	◎	○	○	◎	○	○	○
リエゾンゼミⅣ	渡部純夫	ロールプレイを通して、言語的・非言語的アプローチのポイントを身につける。 ケースを作成することで、人間の心理的世界の複雑さを理解する。 援助が的確に行うことができるように、経験をつんでいく。 自分の心理的動きについても理解を図る。 グループごとに、対応についてのディスカッションを行う。	心理的対人援助の方法を理解して説明できる。 クライアントの心理的動きを見て、面接の流れに応じて対応する仕方を説明できる。	◎	○	○	◎	○	○	○
卒業論文	大関信隆	・本講義では各自の持つ心理学的テーマ(心理学的な関心事)を中心に、卒業論文に取り組むことを課題とします。本課題を通して、物事の問題点を見つけ、必要な情報を選別し、それを使える情報に仕立て、見えてくる結果を伝える技術(力)を身に付けて下さい。 ・実験法を用いた研究を希望しますが、他の手法を用いた研究であっても大歓迎です。4年間の集大成として、最後まで書き上げてみて下さい。	・心理学的な方法論に則った研究を行い、卒業論文を書き上げる。 ・人間行動の諸問題について、自らテーマを設定し、問題を特定し、その心理学的構造を探る技術を通して行動メカニズムを自らの力で探究できる。	◎	◎	◎	○	○	○	○
卒業論文	重宗弥生	実験心理学は、目的とする要因を含む条件と、そのコントロール(対照)となる条件を設定し、それぞれの条件で得られたデータを比較することで、人や動物の知覚・認知について検証する学問です。本授業では、自信が興味のある心理現象について研究計画のもとに検証を行い、実験心理学的な研究を立案し、遂行できる能力を習得してもらいます。また、その研究の内容と結果についてプレゼンテーションし、卒業論文としてまとめることで、研究発表と研究論文の様式を学び、学術的な内容を整理して伝えられる技術を身に付けてもらいます。	①自身の興味をもち、心理学的な現象について検証すべき疑問を提案できる ②課題として扱う事項に対してどのように調査・研究すべきかを提案できる ③取得したデータに対して多角的な解析を行い、それらの結果を統合した考察を行うことができる ④研究の内容と結果について説得力のある発表を行い、質問や指摘について適切に対応できる ⑤研究の内容と結果を、学術的な書式に則った卒業論文としてまとめることができる	○	◎	◎	○	◎	○	△

	卒業論文	柴田理瑛	卒業論文では、これまで学んだ心理学的知見と心理学的研究法を踏まえて一つのテーマについて研究することで、統合的創造的学修を深める。教員の助言指導を受けながら、テーマを決め、文献を調べ、仮説を立て、調査を計画・実施し、結果を分析し、考察する。福祉心理学の“福祉”はすべての人の幸せ、生きがい、自己実現をめざす“well-being”を意味している。このことを念頭に実験・調査を計画すること。	1. 心理学的な課題を設定できる。 2. 心理学の文献をレビューできる。 3. 研究の目的、仮説を立てることができる。 4. 調査・実験を計画し、実施できる。 5. データを分析し、結果をまとめることができる。 6. 結果について、考察できる。 7. 論文を作成できる。	○	◎	◎	○				◎	
	卒業論文	武村尊生	卒業論文では、これまで学んだ心理学的知見と心理学的研究法を踏まえて一つのテーマについて研究することで、統合的創造的学習の経験を持ち、深める。教員の助言指導を受けながらテーマを決め、文献を調べ、仮説を立て、調査を計画・実施し、結果を分析し、考察する。テーマの設定にあたっては、福祉心理学にかなうものが望まれる。福祉心理学の“福祉”はすべての人の幸せ、生きがい、自己表現をめざす“well-being”を意味している。考察も、仮説の検討及び予防的観点や援助的・治療的観点について示唆を与えることが望まれる。	1. 心理学的な課題を設定できる。 2. 心理学の文献をレビューできる。 3. 研究の目的、仮説を立てることができる。 4. 調査を企画し、質問紙を作成し、調査を実施できる。 5. データを分析し、結果をまとめることができる。 6. 結果について、考察できる。 7. 論文として書くことができる。	○	◎	◎					◎	
	卒業論文	中村修	卒業論文では、これまで学んだ心理学的知見と心理学的研究法を踏まえて一つのテーマについて研究することで、統合的創造的学修を深める。教員の助言指導を受けながら、テーマを決め、文献を調べ、仮説を立て、調査を計画・実施し、結果を分析し、考察する。テーマの設定にあたっては、特に発達心理学領域、健康心理学領域から選択されることが望ましい。また、福祉心理学にかなうものも望まれる。福祉心理学の“福祉”はすべての人の幸せ、生きがい、自己実現をめざす“well-being”を意味している。	心理学的な課題を設定できる。 心理学の文献をレビューできる。 研究の目的、仮説を立てることができる。 調査を企画し、質問紙を作成し、調査を実施できる。 データを分析し、結果をまとめることができる。 結果について、考察できる。 論文として書くことができる。	△	◎	◎	△	△			◎	
	卒業論文	三谷聖也	文献を通して家族や親密な集団における諸問題から研究テーマを選定し、家族心理学およびコミュニケーションに関する研究手法を用いた研究計画を立てていく。実際に実験や調査をあるにあたっては研究倫理について十分に理解実践する。研究によって得られたデータは統計的な解析を行い、結果を図表にまとめていく。研究知見の効用と限界、臨床への意義等を考察する。最終的に論文として文章化し、第三者にプレゼンすることができる。	文献を通して家族や親密な集団における諸問題から研究テーマを見出すことができる。家族心理学およびコミュニケーションに関する研究手法を用いて自ら設定した問題を解明することができる。研究倫理について理解実践することができる。研究知見の効用と限界を考察できる。研究を文章としてまとめ第三者にプレゼンすることができる。			◎	◎					○
	卒業論文	吉田綾乃	広く社会心理学に関連するテーマを各自が設定し、そのテーマに沿って実験あるいは調査研究を行う。研究の実践を通して、社会心理学の基礎・応用知識を習得することを目指す。また、個人的・社会的な問題に対して社会心理学の研究手法を用いて検討するスキルを身に付けることを目指す。	1. 社会心理学的な研究アプローチを用いて、自ら設定した問題に対して科学的な知見を抽出することができる。 2. 自らが得た研究知見の効用と限界について考察することができる。 3. 自らが得た研究知見を現実の人間行動に照らし合わせながら、第三者に効果的にプレゼンテーションすることができる。	◎	◎	◎	○	○	○			◎
	卒業論文	渡部純夫	指導教員の助言の下、テーマを決定し、先行研究に当たり、仮説を立て、調査を立案・実施し結果の分析を行い、考察しながら論文をまとめる。テーマは、福祉心理学に見合ったもので、一人ひとりの幸せへの貢献と、生きがい、自己実現のための「well-being」と連動していることが望	心理学的問題を見つけることができる。 心理学の文献をレビューできる。 研究の目的を考え、研究デザインをつくることができる。 仮説を立てることができる。 調査のための質問紙の作成と、調査が実施できる。 結果について統計処理ができる。 考察を行い、論文としてまとめることができる。	◎		○	◎	○	○	○	○	
	卒業論文	山口奈緒美	卒業論文は、現実社会で生じている問題を心理学的に分析して自分なりの仮説をみつけ、心理学的な方法論にのっとりその真偽を確かめ、社会的問題の解決に役立つように結果を考察したものをまとめたものです。この完成のためには、文献レビュー、仮説構築、研究計画の立案、研究の実施、データ分析とまとめといった一連の作業が必要です。この演習では、これらを行います。	1) 現実に生じている問題を社会心理学の概念を用いて説明することができる 2) 設定課題に関する文献をレビューし、問題点や不明確な点を指摘することができる 3) 文献レビューを通して理論的に仮説を構築することができる 4) 仮説を検討するために適切な調査(実験)を計画・実施することができる 5) 調査(実験)で得られた数値的データに対して適切な分析を施すことができる 6) 個々の分析結果を総合的に解釈することができる 7) 分析結果について過不足なく考察が行える 8) 当初の問題意識に立ち返って結果を考察することができる	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
専門発展科目A群	認知・社会心理学特講		2023年度開講せず										
	発達・教育心理学特講	中村恵子、他	子どもの発達支援をディベロッパーに学びます。子どもの発達支援の歴史の中で、我が国に新設された役割と、その草分けを担ってきた支援者たちのキャリア発達についても学びます。	1) 子どもの発達支援における多様な内容を理解し、それらの意義と特徴を説明できる 2) 子どもに支援が提供されるまでの支援者の学びと苦心を理解し、説明できる 3) 子どもの発達支援とその基盤となる理論や方法論について説明できる	◎		○	△					



	心理学的支援法Ⅰ	秋田恭子	悩んでいる人を援助する方法には、様々なアプローチがある。その歴史をたどりながら、どのようなアプローチがあるのかについて学ぶ。	①心理療法とは何かを説明できる ②代表的な心理療法(精神分析、認知行動療法、クライアント中心療法)の違いを説明できる ③個人、集団、子ども、大人などの対象の違いによる心理療法を説明できる。	◎				◎						◎
	心理学的支援法Ⅱ	武村尊生	心理学的支援法として心理療法を実施するにあたっての倫理、心理療法の専門家としての基本的態度、治療構造、治療過程といった、心理療法の実践について扱う。 あわせて、プライバシーへの配慮、訪問による支援や地域支援の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について学ぶ。	1. 心理療法を含む心理学的支援法の実践的知識を習得し、将来実施するときに使用できる。 2. 心理療法を含む心理学的支援法の実施者として必要な、クライアントへの態度について討論できる。	○	○	○	◎	△	○					◎
	心理演習	清水めぐみ、菊池陽子	具体的な場面を想定したロールプレイングや事例検討を通じて、公認心理師の4業務について体験する。ここでは、知識を知的に理解するだけでなく「心理実習」において各分野の施設で利用者や関係者とふれ合うための基本的な技能を身につける体験学習を行い、各分野の施設における実践を見学する際の意欲や関心を深めるために必要な情動を含む学習である。	次の(ア)から(オ)の事項について、具体的な場面を想定した適切な役割演技(ロールプレイング)を行い、かつ、事例検討で取り上げ議論することができる。 (ア)心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得 (1)コミュニケーション (2)心理検査 (3)心理面接 (4)地域支援等 (イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ)心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ (エ)多職種連携及び地域支援 (オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解	○		○	◎							○
	心理実習	大関信隆、清水めぐみ、三谷聖也	公認心理師の4つの業務を行う能力を養う為に学部において設定されている教育課程の中でも、心理実習は非常に重要な役割を担っている。心理実習を履修する学生は、この実習を通じて、学外の心理援助の現場に初めて触れることになる。授業には、実習に加えて、実習の事前・事後の指導やケースカンファレンスの参加、事例検討会なども含まれる。	1. 公認心理師としての職責を自覚する 2. 問題解決能力と生涯学習に向けた態度を身につける 3. 多職種連携・地域連携の意義を理解する 4. 心理状態の観察及び結果の分析をする 5. 心理に関する支援の意義について説明できる	○	○	○	◎	○	◎					◎
	人体の構造と機能および疾病	飯嶋亮子、内藤裕子、鎌田克信	心理職がチーム医療等の中で多職種と協働し心理的支援にあたるには、支援が必要とされる疾病や障害の成り立ち、その理解のための体のしくみ、精神面への影響、そして医療やケアの現状について基本的な知識を身につけておく必要がある。本講義ではオムニバスの講義形式により基本的な知識を学ぶが、各講義を通じ、対象は疾病や障害ではなく「人」であることを念頭に置き、心理職の役割とは何かを考えながら受講すること。緩和ケアチームの現職の公認心理師をゲストティーチャーとして招き講話をして頂く予定。	・疾病や障害の成り立ち、その理解に必要な身体構造や機能について説明できる。 ・心理的支援が必要な対象と、心理職としての役割を論じることができる。	○		◎		△						△
	関係行政論	清水めぐみ	公認心理師の活動と関わる法令等を始めとした社会制度について学ぶ。特に、具体的な心理学的支援場面を想定して、かかる心理学的支援において不可欠の基盤となる代表的な法律・制度を概観する。	1. 公認心理師の活動に関わる保健医療分野に関する制度について説明できる。 2. 公認心理師の活動に関わる福祉分野に関する制度について説明できる。 3. 公認心理師の活動に関わる教育分野に関する制度について説明できる。 4. 公認心理師の活動に関わる司法・犯罪分野に関する制度について説明できる。 5. 公認心理師の活動に関わる産業・労働分野に関する制度について説明できる。	◎		◎	○	○	○					○
専門発展科目B群	健康相談活動(理論及び方法)	内藤裕子	養護教諭の健康相談において必要となる基本的な理論について学びます。心と体の両面に視点を置いて「見立て」「支援」の方法および流れを学びます。また、この授業を通じ「養護教諭の行う健康相談の独自性とは何か」について考え、各自の答えを見つけます。	1. 養護教諭の健康相談において必要となる基本的な理論について説明できる。 2. 心と体の両面に視点を置いて「見立て」「支援」の方法および流れについて説明できる。 3. 養護教諭の行う健康相談の独自性について各自の考えを文章化できる。	◎		◎	◎	◎	○					◎
	健康相談	内藤裕子	保健室には心因性の様々な症状を訴える子どもが来室し、その中には養護教諭の健康相談の範囲を超えた支援を求められるケースもある。養護教諭の健康相談は他の職員や専門機関につながる役割も担っているといえる。しかし「つなぐ」には、どのような理由でどこにつなごうとするのか、心身の状態と背景にある問題を見極める必要がある。そこで、本講義では心理的な見立てを中心に理解を深め、見立てを生かした関わり方およびつなぎ方の実際について事例とロールプレイングを通して学んでいく。自傷や母子分離がテーマとなる架空事例を用いる。	1. 事例を提示された際に、情報を整理して見立てを行い、養護教諭としての対応や連携、配慮点について文章化することができる。 2. 自他を尊重した話し合いを通して積極的に問題解決やロールプレイに取り組むことができる。	◎	○	◎	○	○	○				○	
	救急処置及び看護法	飯嶋亮子	学校生活場面で発生した様々な疾病や外傷に対し、観察から処置までの一連の対応について資料を基に学習します。疾病の特徴を踏まえた上で必要な観察項目を理解し、緊急性や医療機関受診の判断やその後の対応について、根拠や留意点を考えながら学習します。毎回事例を用いて様々な状況を想定した対応についても学習します。	1. 救急場面における緊急性および要受診の判断基準となる根拠について説明できる。 2. 状況に適した処置方法・必要物品が選択でき、対応時の留意点について説明できる。 3. 児童生徒の精神状態に配慮した対応・留意点について説明できる。 4. 救急時における連携・協働の意義と方法について説明できる	◎		◎	◎	○						○
	看護学臨床実習の事前事後指導	飯嶋亮子	看護学臨床実習は、医療現場の実際を見学・体験することによって、患者・家族の生活や心身の状態を理解するとともに、医療チームを構成する各専門職者の役割や機能等について学ぶ、貴重な体験学習となります。医療現場での予防・判断・対応・連携がどのように行われているのか学び、養護教諭としての役割・活動に繋げて考察できるように学習していきます。	1. 健康障害をもつ人の精神的・身体的・社会的問題を理解することができる 2. 疾病や心身の障害の実際を理解し、それらの健康問題に対する専門職者の役割・機能について理解することができる 3. 実習施設の概要・特色を理解したうえで実習計画が立案出来る 4. 実習に必要な基本的看護技術について、目的・方法を理解し実施できる 5. 実習後レポートをまとめることで、実習の成果や自己課題、養護教諭としての在り方について考察出来る 6. 実習の学びの成果として実習報告書をまとめ、発表出来る 7. グループ活動を通して学びを共有し、自他尊重・連携・協働の意義を理解できる。	○		○	○	○	○					○

